

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

事業計画及び成長可能性に関する事項

フィーチャ株式会社（東証グロース4052）

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

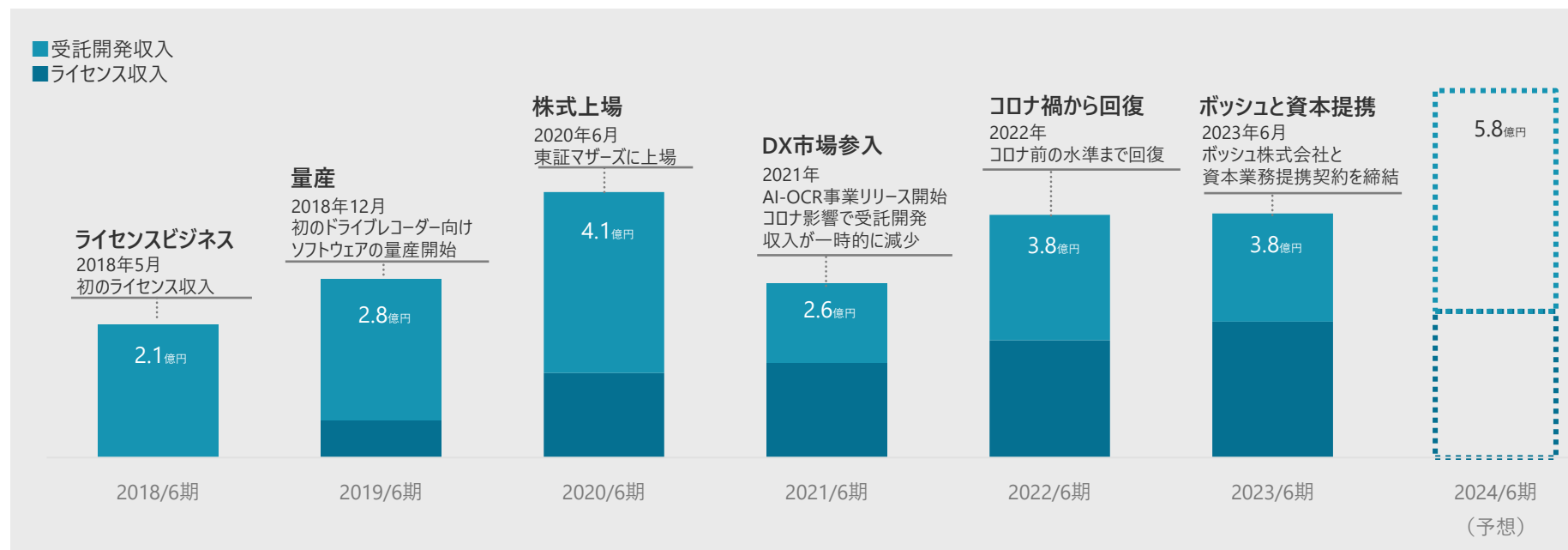
社名	フィーチャ株式会社
代表者	脇 健一郎（代表取締役社長CEO） 曹 暉（代表取締役CTO）
住所	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 19F
創業年月	2005年8月
資本金	290,078千円 2023年6月末現在
従業員数	42名（非正規 16名） 2023年6月末現在
事業内容	画像認識AIソフトウェア開発 / 販売

Make Things Intelligent

私たちは、独自の画像認識ソフトウェアを普及させ、

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、

スマート社会の安全や安心、効率に貢献します



モビリティ事業を主軸に、スマートインフラ事業やDX事業まで幅広く展開

モビリティ事業（主軸事業）

過去10年超にわたり、車載カメラ及びドラレコ向けの画像認識ソフトウェアを開発。
低計算コストかつ優れた精度、カスタマイズ性により、多数のTier1、OEM、ドラレコメーカーに採用。

主製品：
車載カメラ及びドラレコ用
先進運転支援システム(ADAS)
ドライバー監視システム(DMS)



スマートインフラ事業（応用事業）

モビリティ事業で培った技術をインフラ向けに応用。
スマートシティの実現に向けたインフラに関する様々なニーズに対応。

主製品：
交通監視ソフト、インフラ制御ソフト

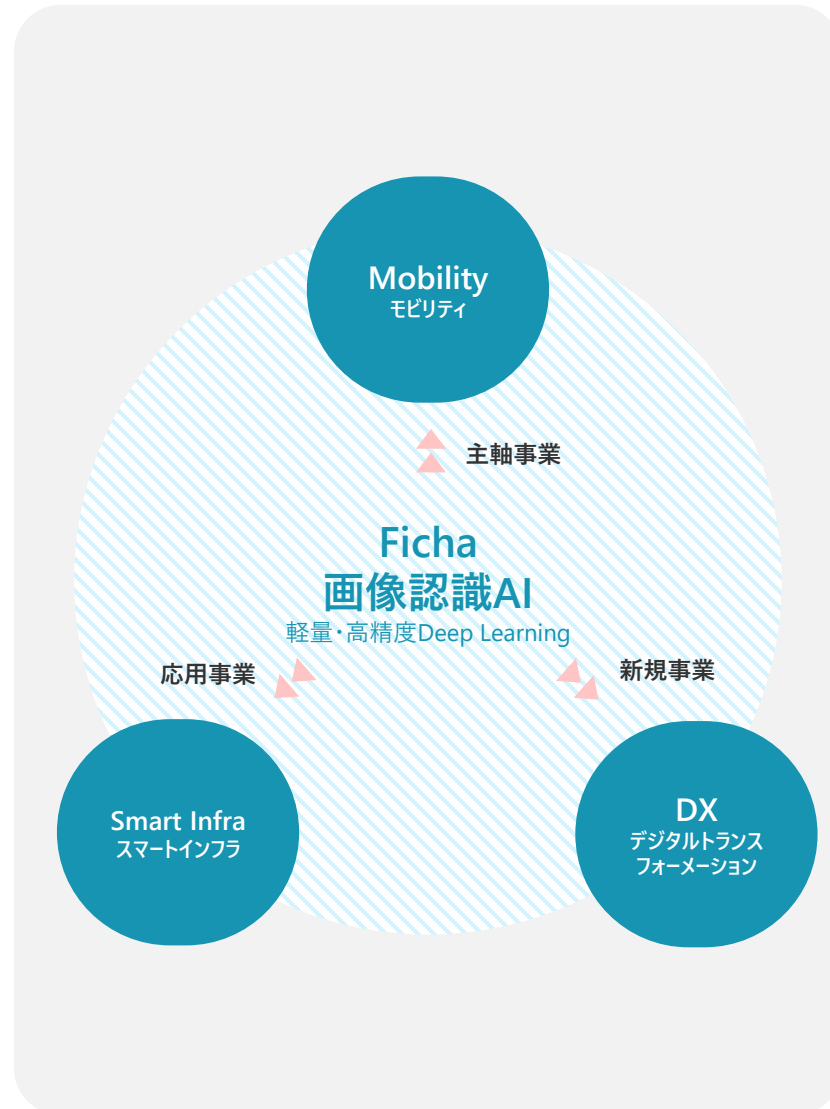


DX事業（新規事業）

競争力の高い物体検出アルゴリズムをベースに開発された高精度AI-OCRや自動帳票解析機能により、DXビジネスを拡大。

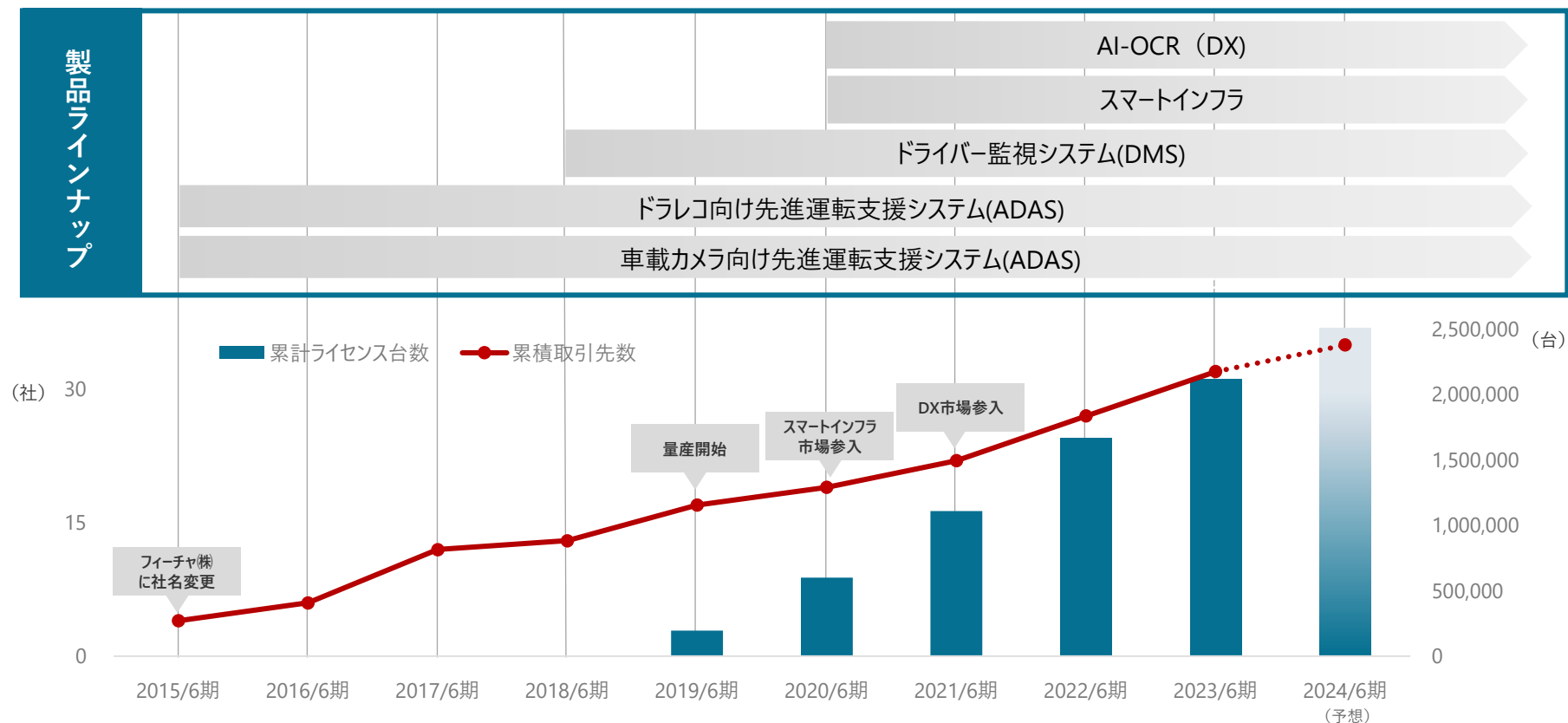
主製品：
AI-OCR、Form Analyzer

納品期限	令和3年 12月 1日	納品場所	〒170-6019 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイ 6019F		
商品コード	商品名	単位	数量	単価	金額(税込)
SRP12	ホワイトボード		20	¥1,000	¥2,200
4678Q	カーナビ		5	¥200	¥1,000
8W54H	A型バリケード		1	¥3,250	¥3,250
合計金額					¥6,750



- 製品ラインナップの充実とともに、着実な成長を実現
- 高い技術力と実用性を評価いただき、累計ライセンス台数は200万台を突破
- 2020年以降は、収益基盤となるモビリティ事業の拡販に加え、事業多角化を見据え、応用技術の活用によるスマートインフラ事業やDX事業に参入

累積取引先数と累計ライセンス台数の推移



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

ADAS&DMS ラインナップが充実 ボッシュとの提携に加え、他の量産案件も順調に進捗

Point 1

「軽量」かつ「高精度」

- KITTI* ベンチマークテスト歩行者検出第1位
- 汎用SOCで動作可能な軽量ディープラーニング

Point 2

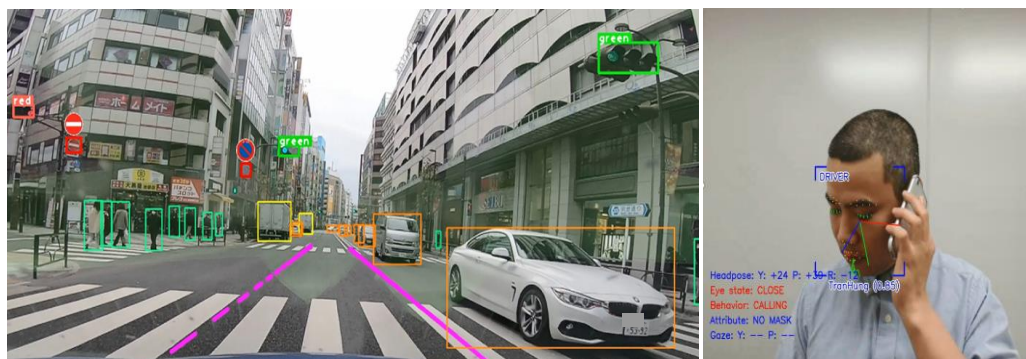
豊富なラインナップ

- 【ADAS】フロント、サラウンドカメラ向け先進運転支援
- 【DMS】居眠り、脇見、危険運転等の検知
- プライバシーマスキング、看板OCR

Point 3

多数の量産実績

- 累計ライセンス台数200万台を突破
- 今後も複数案件の量産開始を予定



主な市場ニーズ

- ① 自動運転
- ② 運転支援
- ③ 運転手監視
- ④ ドラレコデータ活用

製品ラインナップ一例

種類	検知対象	機能
ADAS	車両検知	前方車間距離
		衝突警報
		低速時追突警報
	車線検知	車線逸脱警告、ふらつき検知
	横断歩道検知	一旦停止無視
	歩行者検知	信号無視検知
DMS	信号検知	速度超過警告
	標識	一時停止不停止、信号無視検知
	居眠り	居眠り運転検知
	脇見	脇見運転検知
	危険動作検知	携帯電話操作/通話検知
		喫煙検知
その他	顔認証	運転手の顔認証
	プライバシーマスキング 看板OCR	

* 世界最大規模の車載用ベンチマークテスト「The KITTI Vision Benchmark Suite」2020年4月時点

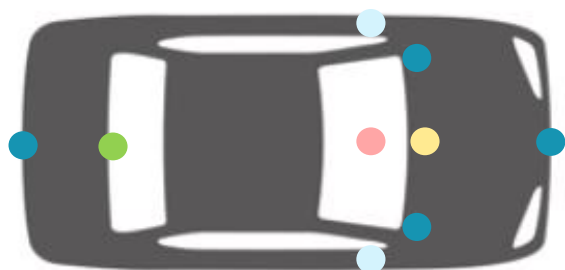
- 当社のターゲットとする市場は自動運転レベル0～3
- 今後市場規模の拡大が確実に見込まれ、完全自動運転が浸透しても継続的な需要が見込める
- 「軽量」かつ「高性能」な強みを活かし、他社との差別化を図る

		説明	市場環境	市場予測 (2030年)
完全自動走行システム	レベル5	完全自動運転	世界的IT企業や自動車企業が巨額の投資を行って研究開発中。インフラの整備や法規制整備に課題があり、本格的な投入時期としては2030年代以降となる見込み。	72万台
	レベル4	特定条件下における完全自動運転 (例) 高速道路での完全自動運転		
準自動走行システム	レベル3	条件付自動運転 (例) 自動運転だが人の介入が必要	運転手の介入が必要なためドライバー監視システムの需要が急拡大。	625万台
	レベル2	特定条件下での自動運転機能 (例) 車間距離制御、自動駐車	当面はレベル2に対応した車両が自動運転車全体の市場を牽引。	6,015万台
安全運転支援システム	レベル1	運転支援 (例) 自動ブレーキ、車線維持支援	ADAS機能搭載の義務化が各国で進み堅実な市場拡大が見込まれる。	1,202万台
	レベル0	運転支援 (自動化なし) (例) 危険を知らせるアラート機能	安全運転意識の高まりから、ドラレコの高機能化や後付けADAS機能のニーズが高い。画像データの応用ニーズも拡大。	—

フィーチャの
ターゲット

*1 矢野経済研究所「自動運転システムの世界市場に関する調査を実施 (2022年)」

■ 新車向け車載カメラ、ドラレコカメラのトータルソリューション



種類	カメラ	製品	当社 開発実績	当社 量産実績
新車向け	サラウンドカメラ	ADAS	○	○
	電子ミラー	ADAS	○	-
	車内カメラ	DMS	○	○
保有車向け (ドラレコ)	フロントカメラ	ADAS	○	○
	リアカメラ	ADAS	○	-
	車内カメラ	DMS	○	○

新車および保有車向けにADAS、DMSを提供可能

交通監視やインフラ制御に画像認識技術の需要拡大 スマートインフラの構築に向けた案件が複数進行中

Point 1

モビリティ技術の応用

- モビリティ事業で培った豊富な開発実績や技術・ノウハウをインフラ向けへ応用
- 【ADAS技術】交通監視、インフラ制御、人流解析 etc.
- 【DMS技術】個人認証、デジタルサイネージ etc.

Point 2

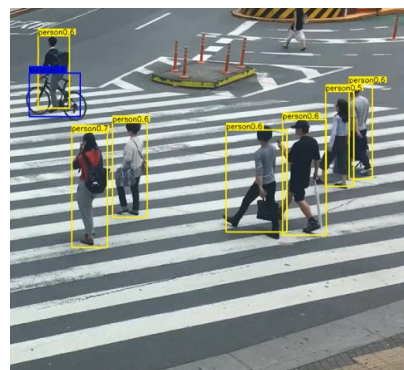
人流解析

- 様々な角度で設置されたカメラで撮影した映像から人物を検出及び追跡
- 人数カウントと人物の移動軌跡、年齢・性別などの情報を可視化
- 利用用途に応じカスタマイズ可能

Point 3

エッジ処理も可能

- ビッグデータ解析にあたり取得・保管する情報への配慮が必要
- 解析後の映像データを保存せず、個人情報漏洩リスクを低減
- 顔やナンバープレートに自動でモザイク処理する自動マスキング技術を保持



主な市場ニーズ

- ①交通監視
- ②インフラ制御
- ③マーケティングリサーチ
- ④個人情報保護

独自のAI技術でDXビジネス向けソリューションを提供 複数企業へライセンス提供開始、規模拡大を目指す

Point 1 活字/手書き文字を高精度で認識

- 文字領域を高精度に自動検知
- 最先端の文字認識アルゴリズムを活用
- 大規模な学習データセットで学習

Point 2 フォーム自動解析

- 帳票画像から項目名と項目値のペアを自動的に抽出
- レシート・請求書等の幅広い帳票に対応可能
- 特定書類向け、サービス構築可能

Point 3 ライブラリ提供可能

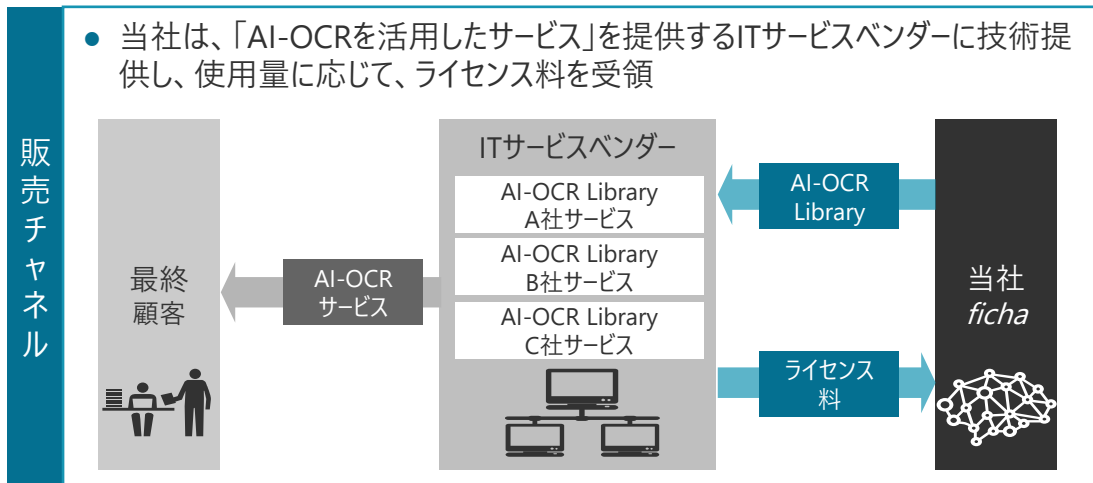
- 自社クラウド/サーバ内でライブラリ利用可能
- クラウドが使用できないケースにも対応可能

高精度の文字検知

- 当社独自の画像認識アルゴリズムにより、高精度の文字検知と処理の軽さを実現

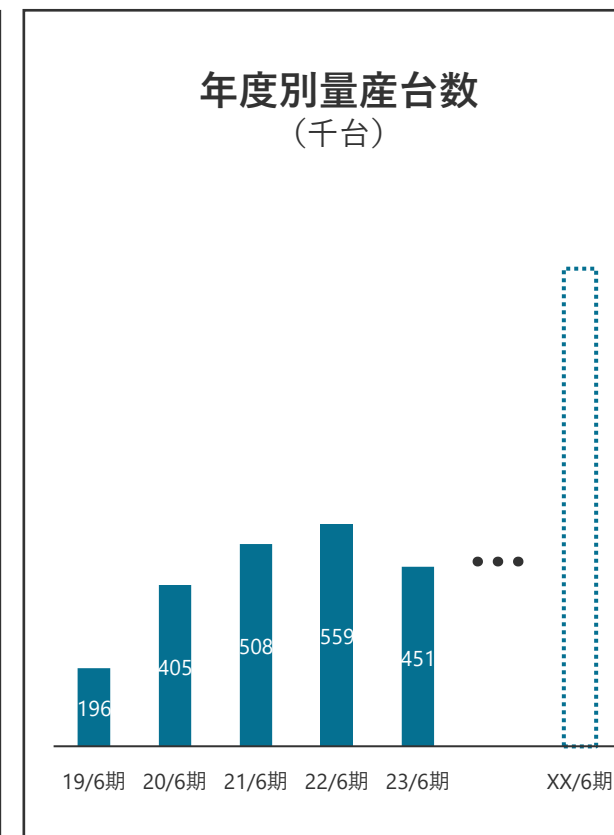
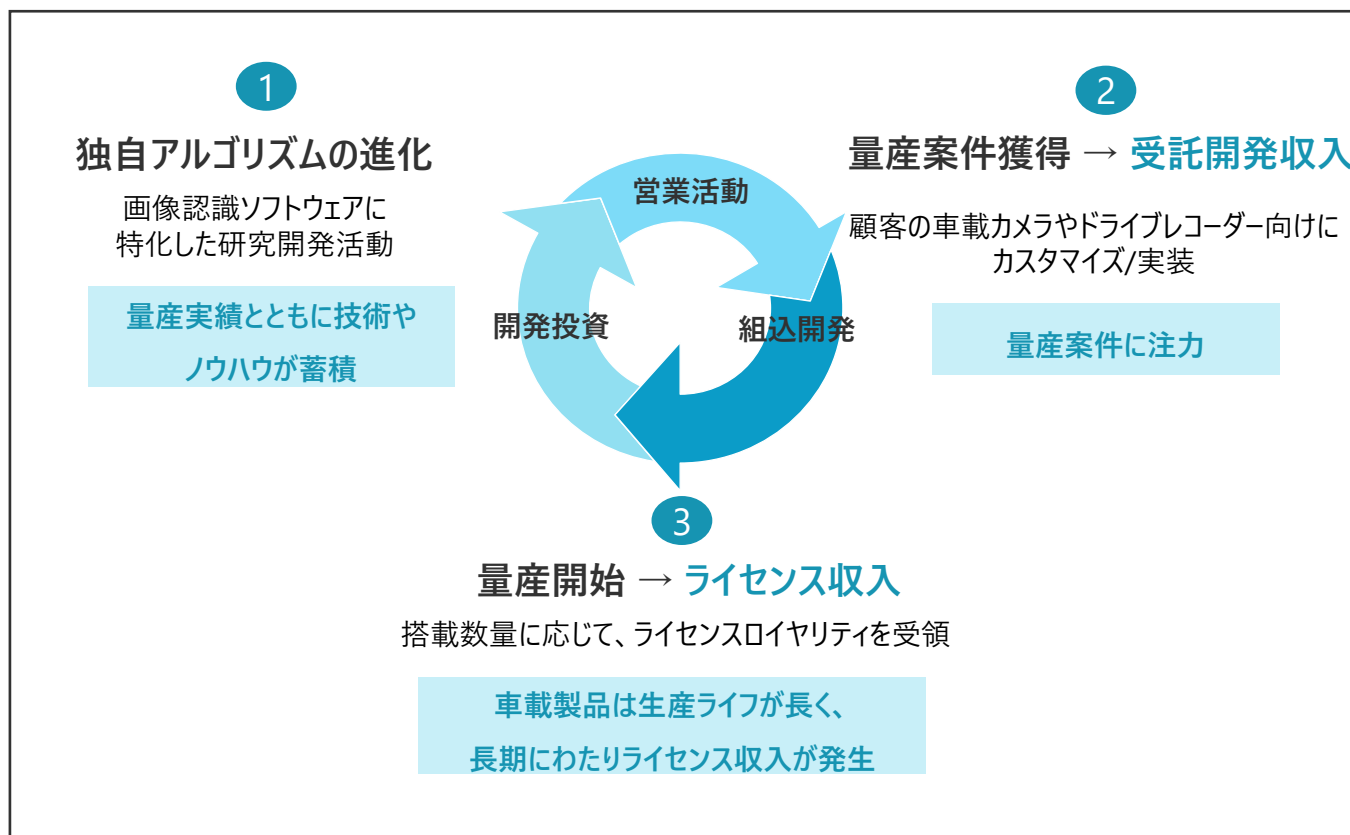
主な市場
ニーズ

- ①手書き文字、帳票対応
- ②RPA
- ③各種アーカイブ
- ④電子帳簿保存



- 量産案件に注力した活動プロセスによって、長期ライセンス収入の実現を推進
- 多数のライセンス製品を積み上げていくことで、加速度的な成長が可能
 - ✓ 当社売上高のうち、約50%がライセンス収入（ライセンス収入の利益率100%）
 - ✓ 量産前提案件に注力し長期的なライセンス収入を狙う（量産案件の車載製品はライフサイクルが長い）

$$\text{売上高} = \text{受託開発収入} + \text{量産台数} \times \text{ライセンス単価}$$



将来のライセンス収入につながる量産案件の受注を着実に積み上げ

● : 新規受注 ● : 量産開始 ● : 新機能・提携リリース



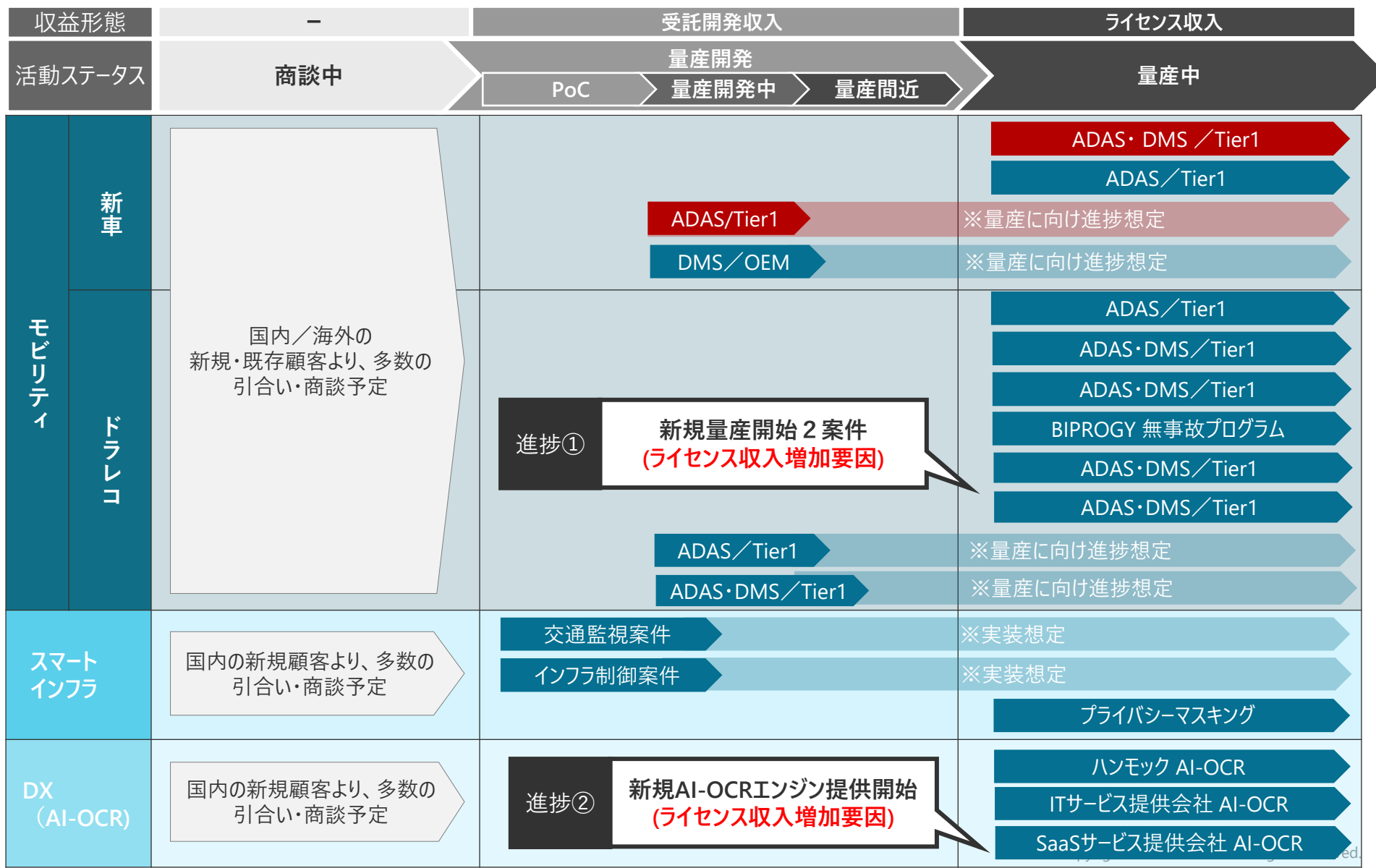
モビリティ	新車				● ボッシュ株式会社との資本業務提携を発表
	ドラレコ	● ドラレコADAS&DMS量産案件受注	● ドラレコDMS追加機能開発受注		
スマート インフラ				● プライバシーマスキングライセンス開始	
DX (AI- OCR)		● ハンモック社向けOCRエンジン提供開始			● SaaSサービス提供会社向けOCRエンジン提供開始
			● ITサービス提供会社向けOCRエンジン提供開始		

主な量産案件進捗状況

量産案件を複数開発中、長期的なライセンス収入の積み上げを実現

海外案件

国内案件



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

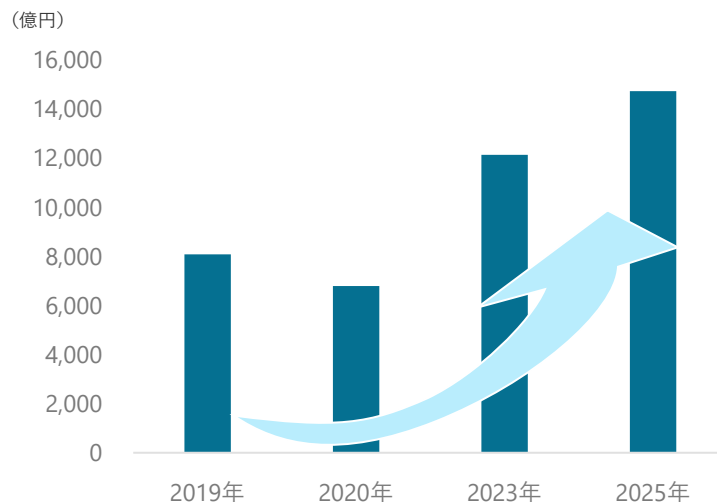
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

外部環境

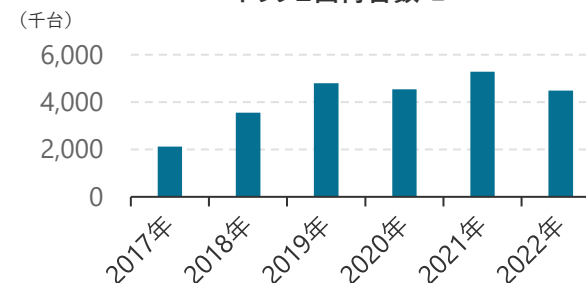
- 高齢化に伴う安全運転と事故防止への意識向上に伴い、ADASに注目
- 従来の前方映像の記録だけでなく、リアカメラや360度カメラなどのニーズも拡大
- ドラレコ付き自動車保険や法人向けのドラレコを使用したサービスが登場
- ドラレコの高機能化や、ドラレコデータの応用ニーズも拡大

市場見通し

ADAS/自動運転用センサの世界市場規模予測（カメラ）*1



ドラレコ出荷台数*2



- 2025年のADAS/自動運転用カメラの世界市場規模は、1.4兆円規模まで成長すると予測
- ドラレコについても、あおり運転等、他車の危険運転からの防衛意識の高まりから、出荷台数は堅調に推移

当社 活動進捗 <概要>

- ポッシュ株式会社との資本業務提携を発表
- 処理の軽さ及びドラレコ・車載カメラへの多数の量産実績を評価いただき、新規顧客が拡大
- 量産案件が積み重なり、順調に成長

*1 矢野経済研究所「ADAS/自動運転用センサ世界市場に関する調査（2020年）」

*2 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）及び一般社団法人ドライブレコーダー協議会（JDRC）

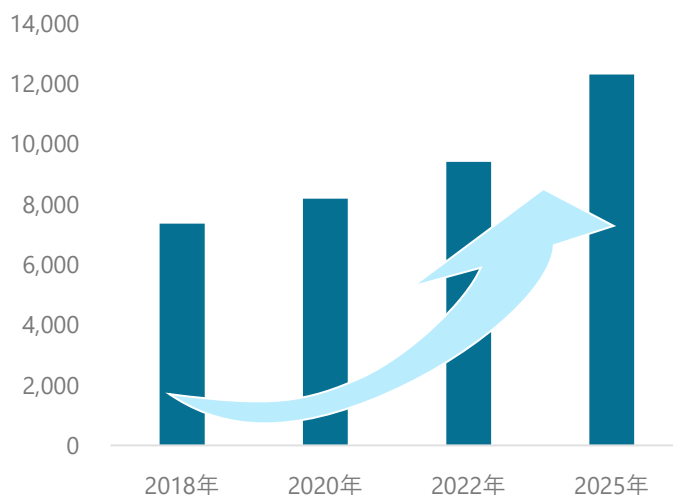
外部環境

- 公共インフラの安全性に対するニーズは年々増加
- 政府の様々な取り組みと官民パートナーシップにより、市場の成長を後押し
- ネットワークの効率的な運用や、不正アクセスによる情報漏えい対策のために、クラウドだけでなく、エッジコンピューティングにも注目

市場見通し

スマートシティプラットフォームの市場規模予測（日本国内）*3

(億円)



- 5Gの普及により、収集可能な情報の量と質の両面が拡大し、スマートシティプラットフォームの市場は、2025年度には1.23兆円規模となると予測
- アジア太平洋地域は、デジタルインフラ整備への関心が高まっていること、インドや中国など経済発展が著しく、政府がスマートシティ開発に多額の投資を行っていることから、世界第2位の市場シェアを占めるとともに、最も速い成長率が期待されている地域でもある

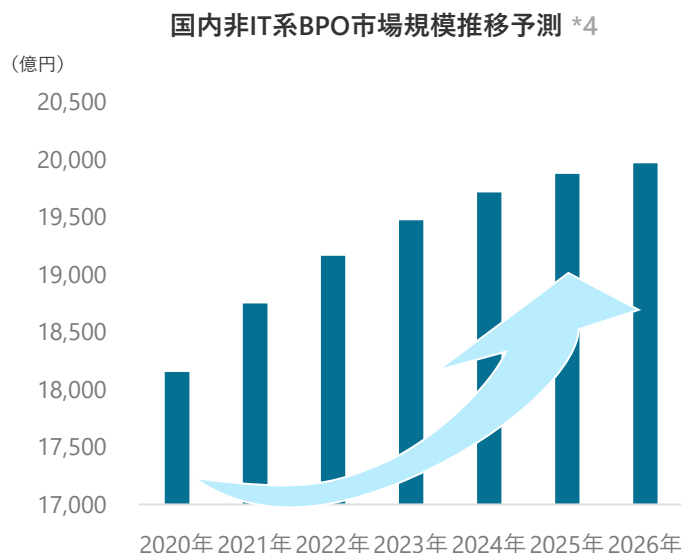
当社 活動進捗 <概要>

- 複数案件の量産に向けた開発が進行中
- プライバシーマスキングライセンス提供開始

外部環境

- テレワークの普及・拡大に合わせて、働き方改革やDXの推進を通じた業務変革に取り組む企業が急増
- AIによる認識精度向上に伴い、OCR導入が拡大
- RPAとの連携により、様々なサービスと組み合わせて利用するニーズが拡大

市場見通し



- コロナ禍により経済活動がストップした2020年以降、テレワークの普及・拡大に合わせて、働き方改革やDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を通じた業務変革に取り組む企業が増え、社内人員の再配置を含めた業務オペレーションの抜本的な見直しを加速させていることが、引き続きプラス成長を後押し

当社 活動進捗 <概要>

- 複数社ヘライブラリを提供中
- 自動フォーマット解析機能をリリースし、提供開始
- 生成AI技術を活用し、更なる機能向上に向けた研究開発を実施

*4 株式会社矢野経済研究所「BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）市場に関する調査を実施（2022年）」（2022年11月8日発表）

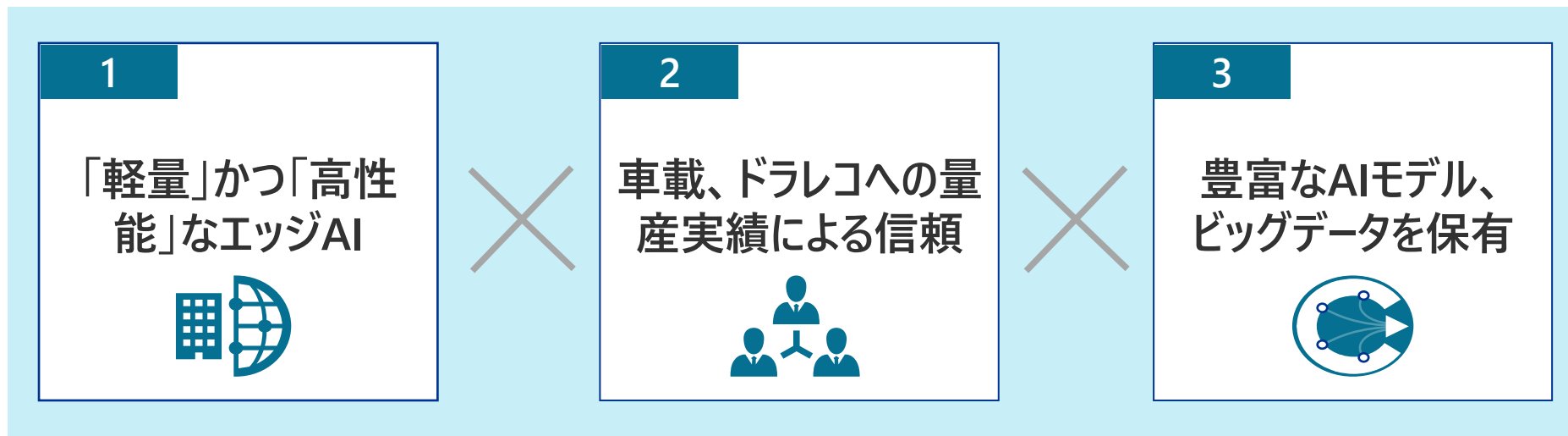
1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

- 当社は、機能性に優れたエッジAI等の技術力をベースとした多数の量産実績を有しております。
- 加えて、開発活動を通じて蓄積した、当社独自のAIモデルや保有ビッグデータを強みとして、更なる事業拡大に取り組んでおります。

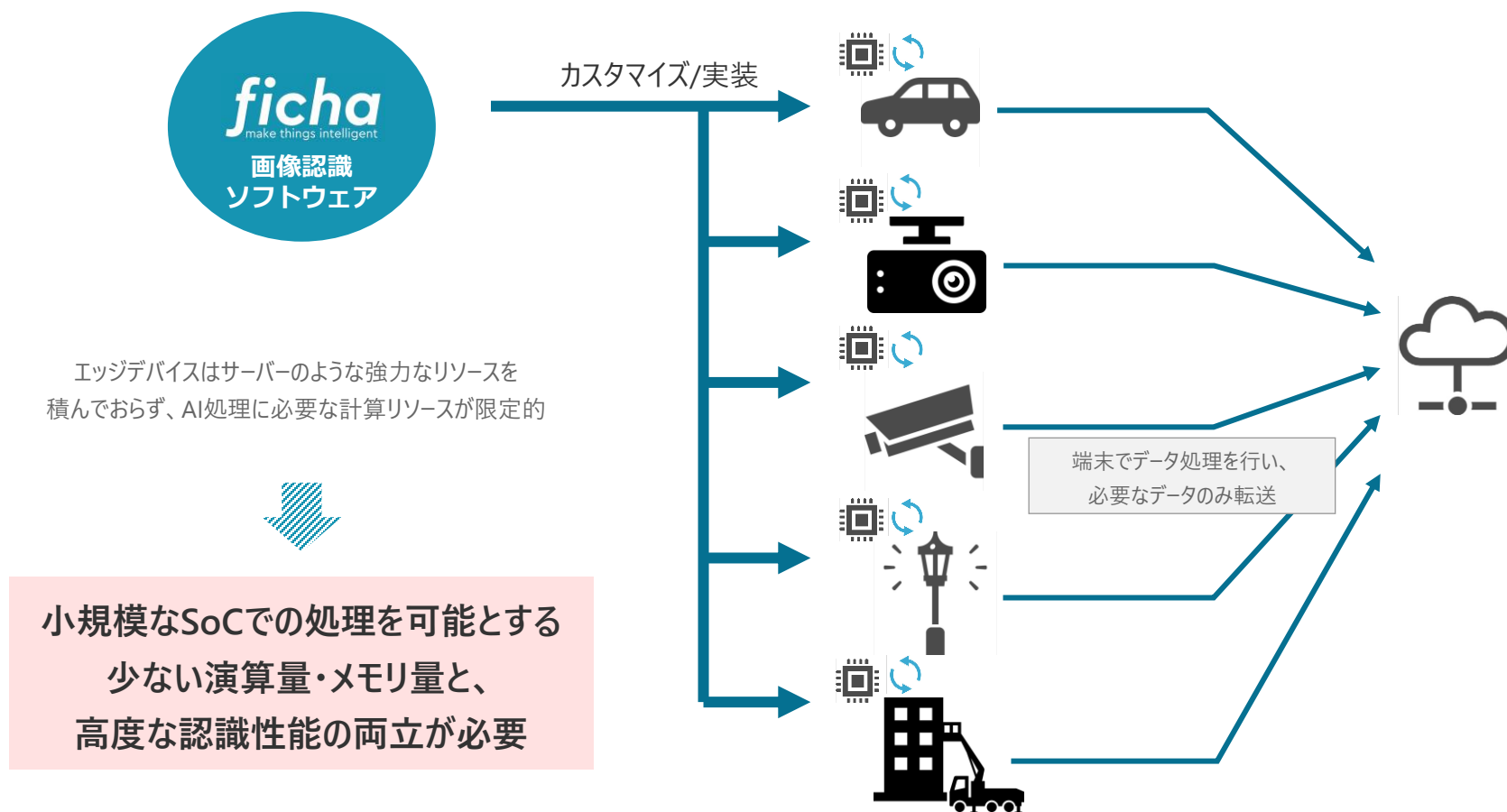


当社の強み

1	<ul style="list-style-type: none"> • 車載カメラやドラレコ等の非力なLSI で動作可能な高精度な軽量AIを保有。 • 顧客のニーズに沿って開発した豊富なソフトウェアラインナップを有する。
2	<ul style="list-style-type: none"> • 当社の画像認識ソフトウェアは、その実装性能を評価され、車載カメラやドラレコに採用され、多数の製品で量産化。累計搭載台数は200万台を突破。
3	<ul style="list-style-type: none"> • モビリティ分野・スマートインフラ分野の開発経験を通じて、豊富なAIモデルと撮影画像等のビッグデータを保有。少ない顧客データで効率的な開発が可能。

① 「軽量」かつ「高性能」なエッジAI (1/2)

- 独自のアルゴリズムにより、精度を落とさず軽量化を実現
- 高性能なモデルを低スペックなエッジデバイスに実装することが可能
- 自社で大規模なデータを保有し、少ない顧客データで高性能なモデルを開発可能



小規模なSoCでの処理を可能とする
少ない演算量・メモリ量と、
高度な認識性能の両立が必要

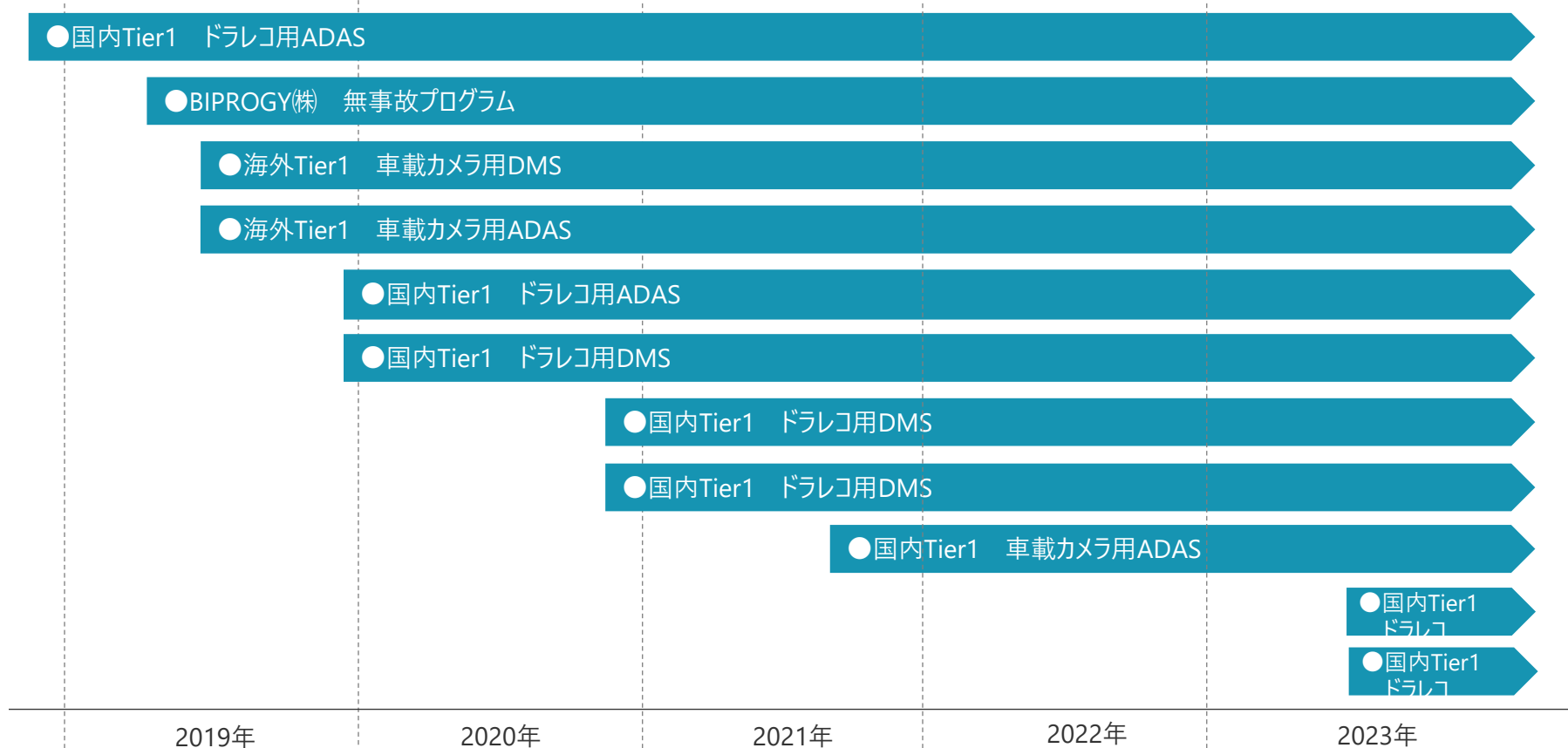
① 「軽量」かつ「高性能」なエッジAI (2/2)

■ エッジAIのメリット

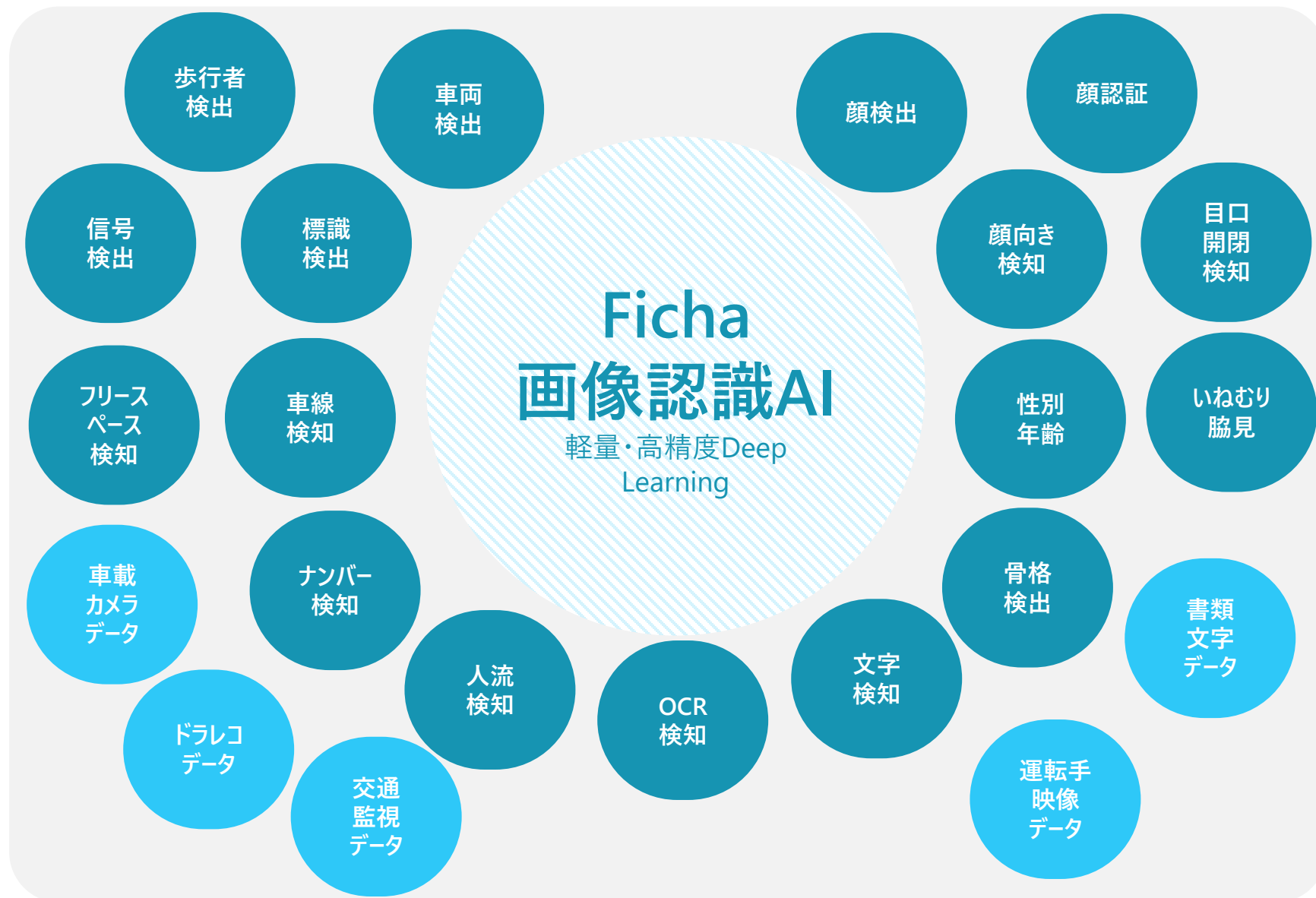
	クラウドAI	エッジAI
1 遅延	 高遅延 クラウド上でデータ処理が行われるため遅延が発生	 低遅延 AI処理がエッジでリアルタイムで行われる
2 コスト	 高い 通信コスト、サーバーームのランニングコストが高い	 安い 通信コストとAI処理コストを節約
3 消費電力	 大きい 大規模サーバーームを使用するため消費電力が大きい	 小さい 低消費電力チップでAI処理が行われる
4 セキュリティ リスク	 高い データをサーバーに転送するためプライバシーに課題	 低い データをサーバーに転送しないためリスク低減

② 車載、ドラレコへの量産実績による信頼

- BIPROGY（株）の無事故プログラムサービスに使用されるドラレコに、信号無視、一時停止不停止、速度違反検出のソフトウェアを搭載し、2019年2月よりサービス開始
- 歩行者・車両検出及びDMSソフトウェアが国内外Tier 1の自動車メーカーの製品に搭載
- 高度な技術と量産化のノウハウにより、顧客のニーズに沿った最適なソリューションを提供可能



③ 豊富なAIモデル、ビッグデータを保有



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

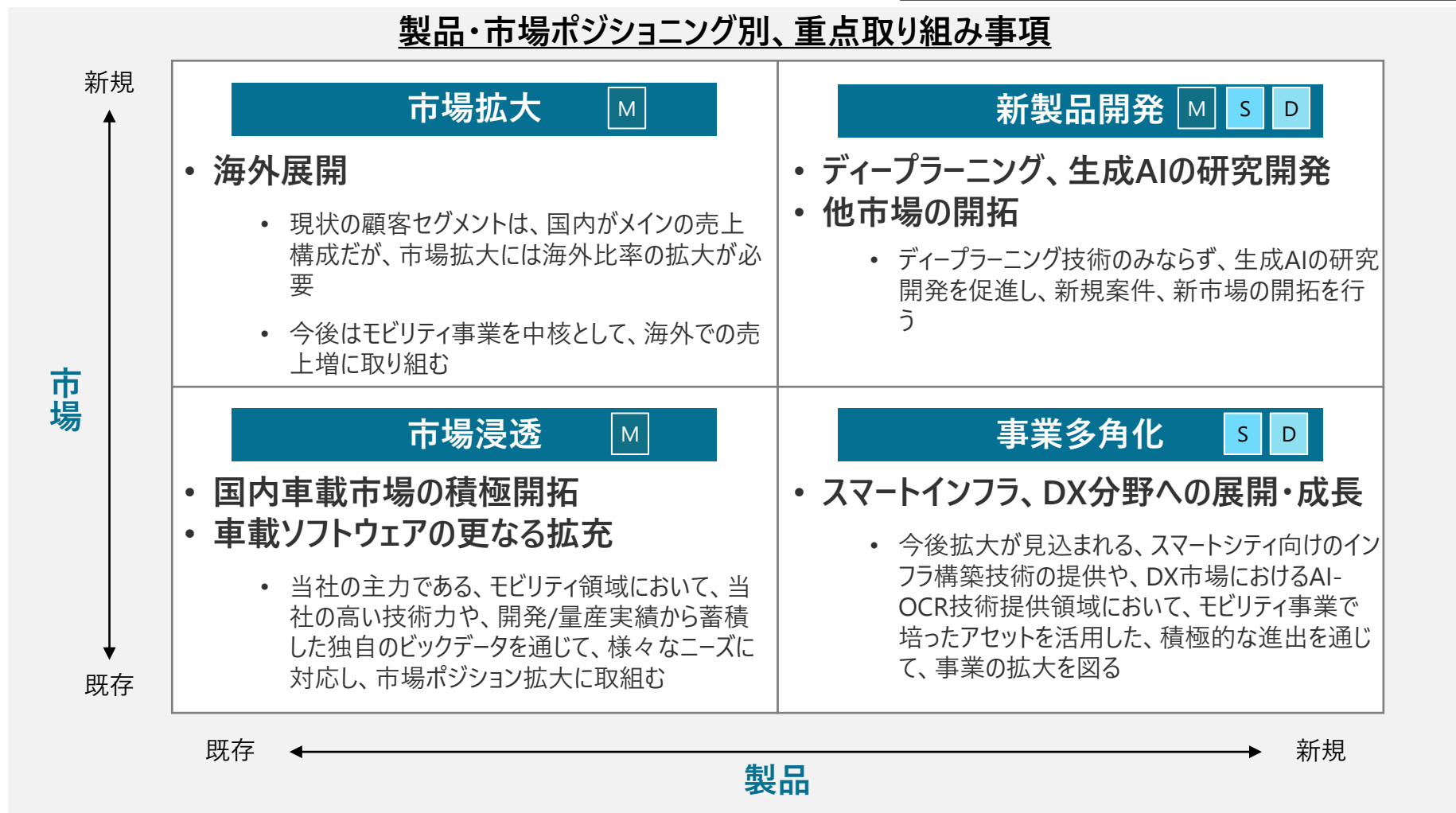
今後も拡大する画像認識ソフトウェア市場において、当社の技術力を通じて、開発/販売を加速し、事業拡大と高い成長性を継続

モビリティ事業
M

スマートインフラ事業
S

DX事業
D

製品・市場ポジショニング別、重点取り組み事項



2023年6月期の振り返りと2024年6月期業績予想

(2023年6月期)

- ドラレコ向けの新規開発の開始が遅延した影響により受託開発収入が当初予想より減少
- 大手自動車メーカーの新車向け車載カメラ案件の量産につき、新規車種の量産開始が後ろ倒しになったことによりライセンス収入が当初予想より減少

(2024年6月期)

- 受託開発収入は、複数の大型案件の受注により大幅増収見込み
- 事業拡大のため、エンジニアを中心とした人材への投資実行。開発環境構築のためオフィスの増床を実施済み
- 生成AI技術への研究開発投資を計画

(単位：百万円)

	2023年6月期		2024年6月期	
	当初予想	実績	予想	前期実績比
売上高	512	389	580	+48.9%
うち、受託開発収入	266	172	349	+101.8%
うち、ライセンス収入	245	216	231	+6.7%
営業利益	81	△23	22	—
親会社株主に帰属する当期純利益	66	△28	18	—

- 自動車部品世界シェア最大手であるボッシュとの資本業務提携を発表
- 両社グループの関係を一層深化させ、長期的な戦略パートナーシップを構築
- 当社からボッシュへ、先進運転支援システム（ADAS）向け画像認識分野の専門的なエンジニアリングサービス及び技術を提供
- 開発パイプライン拡充による長期的な収益基盤の確立を図る

■ 第三者割当増資により調達した資金の投資計画

(単位：百万円)

資金使途	調達額	既支払額	支出予定時期及び見通し
事業拡大のための採用費及び人件費	126	3	2026年6月までに充当予定
開発環境構築のための設備投資	50	9	2024年6月までに充当予定
計	176	12	

(※) 既支払額は2023年6月末時点

経営執行体制の若返りを図り、成長戦略の着実な遂行を通じて、当社グループの持続的な成長と企業価値向上をより一層推進するため、社長交代を実施（2023年9月28日株主総会、取締役会をもって正式決定）

- 現代表取締役CTOの曹が代表取締役社長CEO兼CTOへ
- 現代表取締役社長CEOの脇は営業管掌の取締役として、引き続き全般的な営業活動の牽引役として注力し、グループの価値向上に励む



新代表取締役社長 曹暉

（経歴）

2007年、名古屋大学大学院情報科学研究科知能メディア専攻博士課程修了。博士（情報科学）取得後、独立行政法人理化学研究所、株式会社豊田中央研究所にて物体認識に関する研究開発に従事。2012年に当社入社、画像認識事業を立ち上げ。2013年当社取締役就任、2017年当社代表取締役CTO就任（現任）。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

経営において認識される主なリスク

以下には、当社が経営においてリスク要因となりうる主な事項について記載しております。（有価証券報告書「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照下さい。）

認識するリスク	リスクの内容	顕在化する可能性/時期	影響の程度	対応策
市場動向について	当社グループは、車載カメラ及びドライブレコーダー用画像認識ソフトウェアの開発を主力事業としております。今後、新たな法的規制や業界団体による規制の導入、その他予期せぬ要因等により、顧客企業におけるソフトウェア開発の外部委託の縮小や内製化若しくはニーズの変化、新車販売動向の低迷等、市場規模が縮小する動きがみられた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。	中程度 /中長期	中	常に市場動向を把握し、市場動向に応じた柔軟な対応を行うとともに、他市場への展開を積極的に進めることでリスクの低減を図ってまいります。
技術動向について	当社グループの技術革新が想定どおりに進まない場合や、予想以上の急速な技術革新や代替技術・競合商品の出現、依存する技術標準・基盤の変化等により、当社グループの製品が十分な競争力や付加価値を確保できない場合等には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。	低程度 /中長期	大	優秀な人材の採用や子会社を含めた研究開発に積極的に取り組んでおります。また、常に市場動向を把握し、技術革新への対応を講じることにより、今後も競争力のあるサービスを提供できるようリスクの低減を図ってまいります。
ライセンス収入の変動について	当社グループのライセンス収入は、当社ソフトウェアが搭載された製品の製造、販売または使用に伴い認識されますが、製品の製造、販売または使用は、顧客の販売計画や営業活動に依存するため、顧客の販売計画が変更等された場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	高程度 /中期	中	当社ライセンス製品の採用件数を増やしていくことで、特定のライセンス製品の販売状況の変動によるリスクの低減を図ってまいります。
特定顧客への依存度について	当社グループの売上高は、特定の主要顧客に依存しており、2023年6月期においては、売上高上位3社に対する売上高が売上高全体の52.7%を占めております。これら主要顧客との取引関係や自動車業界の動向に変化が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	中程度 /中期	中	主要顧客との良好な関係の維持に努めるとともに、他市場を含めた新規顧客の獲得を積極的に進めることでリスクの低減を図ってまいります。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 市場環境
4. 当社の強み
5. 成長戦略
6. リスク情報

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

車載・ドライブレコーダー向け画像認識ソフトウェアソリューション

精度と実装性を兼ね備えたアルゴリズム

画像認識ソフトウェア技術

ディープラーニング(DL)

非ディープラーニング

画像処理

+

車載用ソフトウェア特有のノウハウ

+

LSIへの実装技術



安全、安心、効率化に貢献する多様なソフトウェアラインナップ

モビリティ検知認識

歩行者検出
縁石検出
信号認識
四輪車検出

二輪車検出
標識認識
車線検出
横断歩道検出
フリースペース検出



顔検知認識

顔特徴点検知
顔検知
顔認証
顔属性推定
(マスク、眼鏡、性別、年齢、表情)

顔向き推定
視線推定



HMI*検知認識

*ヒューマンマシンインターフェイス

ジェスチャー認識
危険動作認識
(喫煙、ドリンク、電話)

全身姿勢推定





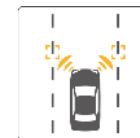
『汎用LSIで動く』軽量ADASソフト

歩行者、車両、バイク、標識、車線などを高精度に検出



歩行者衝突警報 (PCW)

- 歩行者、自転車の検知
- 歩行者衝突警報



車線逸脱警報 (LDW)

- 車線と車両間の位置を検出
- 車線逸脱、ふらつき警報



前方車衝突警報 (FCW)

- 前方車両の検知
- 前方車衝突警報
- 衝突被害軽減ブレーキ



標識検知 (TSD)

- 標識検出を利用した交通違反の検知



『汎用LSIで動く』ディープラーニング

車内カメラによってドライバーの運転状態を監視し、危険運転・事故防止を目的としたシステム

特別なハードウェアを必要とせず、汎用CPUで実現可能



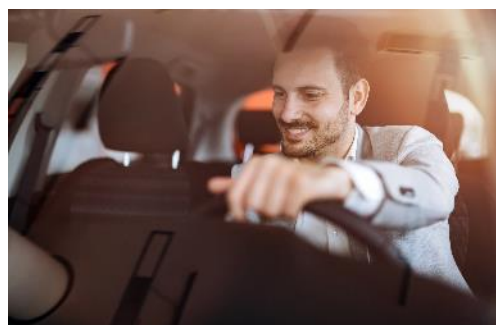
顔認証

- ドライバーを識別し、シート位置を自動調整



危険運転検出

- 運転中の電話、飲食、喫煙を検出



よそ見運転

- 顔の向き等から運転中のよそ見を検出



居眠り運転検出

- 目の状態、顔の角度、あくび頻度等から居眠り状態を検出

- ・本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意下さい。
- ・これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。
- ・また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- ・当資料のアップデートは本決算の発表時期を目途として開示を行う予定です。なお、次回の発表は、2024年9月頃を予定しております。